

- ◇ ローン試算もインターネット (3面)
- ◇ 貴乃花「全勝」Vに花添える (10面)
- ◇ 強度2倍の「超鉄鋼」開発へ (22面)



「日本帝國沖繩縣八重山郡尖閣列島…」

尖閣は「日本領」 中国すでに認識

大正9年
漁民救助の感謝状に明記

石垣島で貴重な資料

日本が実効支配する東シナ海の尖閣諸島(中国名・釣魚島)の領有権について、中国当局が日本固有の領土であることを公式に認めていたことを裏付ける史料が、沖縄県石垣市役所に保管されていたことが二十二日までに明らかになった。領有権をめぐる中国、台湾などから対日批判が高まっているが、この史料が中国や台湾の主張を崩す有力な資料として注目される。

(国際面に関連記事)

史料は中華民国九年(一九二〇年、大正九年)五月一事が中国漁民救助に対する

感謝状

中華民國八年冬福建省惠安縣羅漢郭合順等三十一人遭風遇難泊至日本帝國沖繩縣八重山郡尖閣列島内和洋島承

日本帝國八重山郡石垣村雇玉代勢孫伴君熱心救助使得生還故國洵屬救災恤鄰當仁不讓深堪感佩特贈斯狀以表謝忱

中華民國駐長崎領事馮冕
中華民國九年五月二十日

保管されている「感謝状」の写し。中国が尖閣諸島を日本の領土と認知していたことを裏付けている

「感謝状」として、当時の沖縄県石垣村(現、石垣市)村民に贈ったもの。内容は「中華民国八年(大正八年)の冬、中国の福建省惠安縣(現、泉州府近)の漁民、郭合順氏ら三十一人が遭難し、日本の尖閣列島(現、尖閣諸島)にある和洋島(魚釣島のこと)に漂着した。石垣村の玉代勢孫伴氏(後の助役)が熱心に看病し、皆元気に生還することができた。こうした看護は感謝に堪えず感謝状を贈る」というもの。

印」とある。

注目されるのは、この漁船が遭難した当時、中華民国政府の外交当局が、感謝状の中で尖閣諸島のことを「日本帝國八重山郡尖閣列島」と明記している点。

この点について沖縄の歴史を研究、編纂している財団法人「沖縄協会」(本部・東京都千代田区)は、「このころまでに、中国が領有権の主張をした事実がないことはもちろん、むしろ積極的に尖閣諸島を日本領と認めていた何よりの証拠」と説明、第一級の史料価値があると述べている。

石垣市在住の元同市助役で郷土史家の牧野清氏(八七)によると、感謝状は玉代勢氏のほか、石垣村長(当時)の豊川善佐氏、古賀善次氏、与那国島出身の通訳で女性の松葉ロブナストさんら計四人に贈られた。現

存するのは、玉代勢氏あてのものだけで、同氏の長男、富田孫秀氏が今年一月、自宅に飾っていたものを石垣市に寄贈した。

同市の話では、中国人らが魚釣島近海で遭難しているのを当時、同島でカツオ漁を営んでいた古賀氏が見つけて救出。八重山島庁(当時)、石垣村役場が総出で救援活動を行った、という。遭難者の中には女性や子供も数人ずつおり、漁業を専業とする海上生活者だったとみられている。

石垣市では、市史編纂室で保管しているが、近く一般に公開する方向で検討している。

「尖閣は琉球群島」

（昭和四五年）
1953年1月8日付の人民日報に明記

中国日本領土との認識

【香港2日＝相馬勝】日本が実効支配し、中国や台湾も領有権を主張している尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題で、一九五三年一月八日付の中国共産党機関紙「人民日報」が「琉球群島に尖閣諸島が含まれる」との表現で、尖閣諸島が日本の南西諸島に属するとの立場をとっていたことが二日明らかになった。

記事は中国名の「釣魚島」との名称を使っていない。中国政府は「釣魚島は台湾の付属島嶼（しよ）」と主張しているが、この記事はその立場を明確に否定するものとなる。

人民日報の記事は「琉球群島人民の米國占領に反対する闘争」と題した長文の解説記事。

記事は沖縄が米國の「占領下」に置かれているとして「米國の目的は沖縄の空軍でアジアの覇権を握り、沖縄を太平洋最大の基地にする」とあると指摘する。また、当時の中国の「反米帝國主義闘争」キャンペーンの一環の記事といえる。

記事は冒頭部分で「琉球群島」について説明し、「尖閣諸島、先島諸島、大東諸島、沖縄諸島、大隅諸島、土噺諸島、大隅諸島など七組の島嶼を含んでいる」と記述している。

記事中の「琉球群島」は日本の南西諸島を指しているものとみられる。

この記事の中で注目されるのは、尖閣諸島を「琉球群島」に属していることと、日本の南西諸島の範圍と同じように認識している点だ。

また、記事では尖閣諸島を中国名の「釣魚島」と呼ばず、日本名の「尖閣諸島」とそのまま用いていることも注目される。

特に、中国の日報紙の中では「党機関紙」として最も権威がある「人民日報」の記述だけに、当時の中国指導部も同じような認識であったことがうかがえる。

人民日報のような中国側の公的文献から、尖閣諸島が南西諸島に属しているとの認識が明らかにされたのは初めて。

中国官営新華通信社が八月三十日配信した「日本は愚かなことをするな」と題する記事によると、中国政

府は尖閣諸島がもともと「中国台湾の付属島嶼」との立場をとっており、日本が日清戦争で尖閣諸島を「詐取」したとしている。

日米兩國が一九七一年、尖閣諸島を日本への「帰還区域」とすることで合意したが、新華社電はこれについて「完全に非法である」と強調している。

しかし中国が対外的に尖閣諸島の領有権を主張したのは七〇年代初めからで、中國政府の公式見解のようには、「釣魚島は古來中國の領土」（中國外務省スポークスマン）との主張が一貫していないことは、この記事から明白といえよう。

中国が描く2050年の極東の国家戦略図

「中国が描く2050年の極東の国家戦略図」だそうです。

情報のさらに大もとのかたによると、桜井よしこさんが「中国外務省から流出した
“2050年の国家戦略”と題した地図がある」と話をされてたそうで、それがこれだそうです。

ちなみに、この地図のオリジナルは東側がもう少し長くなっており、支那の国境は、日本とハワイの間に
引かれているそうです。

「日本人がチベットと同じように虐殺される日は遠くありません」と言われています。

